

【「草案本嗣書断簡」と修訂本との対照】

「草案本『正法眼蔵嗣書』断簡」と駒澤大學禅文化歴史博物館所蔵「修訂本『正法眼蔵嗣書』」と比較対照してみたい。

道元禅師は、『正法眼蔵嗣書』の文章の訂正を長期にわたり続けている。その結果、道元禅師の自筆本とされる伝本においても、テキストの異同が生じている。テキストの校合を行うとともに、ひらがなの用字（所謂変体仮名を含む）について、その異同にも注目したい。そこで、平仮名をその本となった漢字に置き換えて比較検討したいと思います。併せて、香積寺副本所載「草案本『正法眼蔵嗣書』」を翻刻する。

*傍線部は、文字の異同を示す。

**朱色は、ひらがなの用字の違いを示す。

***行数は、香積寺副本に依拠するが、一部改変し、整理番号が齟齬する場合がある。

- A ①永平寺所藏「草案本『正法眼藏嗣書』断簡」
- B 駒澤大學禪文化歷史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」
- 0001
- A 嗣書
- B 嗣書
- 0002
- A 觀音導利興聖寶林寺
- B 觀音導利興聖寶林寺
- 0003
- A 佛佛可奈良寸佛佛尔嗣法_之祖祖可奈
- B 佛佛加奈良寸佛佛_尔嗣法_志祖祖加奈
- 0004
- A 良寸祖祖尔嗣法寸類古礼證契奈利
- B 良壽祖祖_尔嗣法寸類己礼證契奈里
- 0005
- A 古礼单傳奈里古能由惠尔無上菩提
- B 己礼單傳奈里己能遊衣尔無上菩提
- 0006
- A 奈里佛_尔安良左礼盤佛遠印證寸類
- B 奈里佛_尔安良左礼盤佛遠印證寸類

0007

A 尔安堂者寸佛能印證遠衣左礼盤

B 尔安太者寸佛能印證遠衣左礼盤

0008

A 佛止奈類己止奈之佛尔安良寸与里盤

B 佛止奈類己止奈志佛尔安良寸与里盤

0009

A 堂礼可古礼遠取尊奈里止之無上

B 堂礼可古礼遠取尊奈里止志無上

0010

A 奈里止印可寸類己止安良无佛尔印

B 奈里止印寸類己止安良无佛能印

0011

A 證世良類尔無師獨悟寸類奈里無

B 證遠宇類止幾無師獨悟寸類奈利無

0012

A 自獨證寸類奈里己能由衛尔佛佛證

B 自獨悟春類奈里己能由部耳佛佛證

0013

A 嗣之祖祖證契寸止以不奈里己能道理能

B 嗣志祖祖證契寸止以不奈里己能道理能

0014

A 天以堂良久波佛佛尔安良左類可安幾

B 宗旨盤佛佛尔安良左礼盤安幾

0015

A 良武部幾尔安良寸以者无也十地等覺能

B 良武部幾尔安良寸以者无也十地等覺能

0016

A 所量奈良无也以可尔以者无也經師論師

B 所量奈良无也以可尔以者武也經師論師

0017

A 等能遊女尔毛幾可左類止己呂奈里太止

B 等能測度寸類止己呂奈良无也堂止飛為

0018

A 飛幾久止毛幾久部可良寸佛佛相嗣寸類可

B 說寸止毛可礼良幾久部可良寸佛佛相嗣寸類可

0019

A 由惠尔志類部之佛道盤佛佛能究盡佛佛

B 由部尔佛道盤堂佛佛能究盡

0020

A 尔志轉佛佛尔安良左類止幾奈之堂止衛

B 尔志轉佛佛尔安良左類時節安良寸堂止部

0 0 2 1

A 盤石盤石尔相嗣^之玉盤玉尔相嗣寸類己止

B 盤石盤石^尔相嗣志玉盤玉尔相嗣寸留己止

0 0 2 2

A 安里又菊^毛相嗣^志松毛印證寸類尔美奈

B 安里菊毛相嗣安里松毛印證寸類尔見三那

0 0 2 3

A 前菊後菊如如奈里前松後松究盡奈類

B 前菊後菊如如奈里前松後松如如奈類

0 0 2 4

A 可己止之志可安類遠幾可左類人安幾良女

B 可己止之加久能己止久奈類遠安幾良免

0 0 2 5

A 左類止毛可良安類盤以者由類佛佛相傳能

B 左類止毛可良佛佛相傳能

0 0 2 6

A 道得尔安不止以衛止毛以可尔以不道得奈利

B 道尔安不止以部止毛以可尔安類道得奈良无

0027

A 止安也志武尔毛於与者寸佛佛相嗣_之祖祖

B 止安也志武尔於与者寸佛佛相嗣能祖祖

0028

A 證契寸止以不領覽安類己止奈之安者

B 證契寸止以不領覽安類己止奈志安者

0029

A 礼无部之佛種族尔相似世里止以衛止毛

B 礼武部之佛種族尔相似奈里止以部止毛

0030

A 佛子尔安良左類己止遠子佛尔安良左類己止遠

B 佛子尔安良左類己止遠子佛尔安良左類己止遠

0031

A 六祖安類止幾衆尔志女志轉以者久七

B 曹谿安類止幾衆尔志女志轉以者久七

0032

A 佛与里慧能尔以堂類尔四十祖安里

B 佛与里慧能尔以堂類耳四十祖安里

A ②永平寺所藏「草案本嗣書断簡」100～106行(7行分)

B 駒澤大學禪文化歷史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」

0100

A 道元在宋能止幾嗣書遠禮拜寸類己止

B 道元在宋能止幾嗣書遠禮拜寸類己止

0101

A 遠衣之^尔多般能嗣書安里所能奈可尔

B 遠衣志^耳多般能嗣書安里幾^{所能奈可耳}

0102

A 惟一西堂止轉天童尔掛錫世之盤越上

B 惟一西堂止天天童尔掛錫世志盤越上

0103

A 人奈里前住廣福寺能堂頭奈里先師

B 能^{人事}奈里前住廣福寺能堂頭奈里先師

0104

A 止同鄉人奈里先師徒祢^尔以者久境風盤

B 止同鄉人奈里先師徒祢^耳以者久境風盤

0105

A 一西堂尔問取寸部之安類止幾西堂以者

B 一西堂尔問取寸部之安類止幾西堂以者

0 1 0 6

A 久古蹟能可觀盤人間能玆玩奈里

B 久古蹟能可觀盤人間能玆玩奈里

A ③大乘寺所藏「草案本嗣書断簡」

B 駒澤大學禪文化歷史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」

0 1 2 0

A 雲門下乃嗣書止以飛轉宗月長老乃天

B 雲門下能嗣書止天宗月長老能天

0 1 2 1

A 童能首座職尔充世里之止幾道元尔

B 童能首座職尔充世志止幾道元尔

0 1 2 2

A 美世志盤以末嗣書遠宇類人能徒幾可三

B 美世志盤以末嗣書遠宇類人能徒幾加美

0 1 2 3

A 能師於与飛西天東地能佛祖遠徒良

B 能師於与比西天東地能佛祖遠奈良部徒良

0 1 2 4

A 祢奈良部轉所能志堂尔嗣書宇類人乃

B 祢天所能下頭尔嗣書宇類人能

0 1 2 5

A 名字安里諸佛祖与里直_尔以未能新

B 名字安里諸佛祖与里直_尔以未能新

0 1 2 6

A 祖師能名字尔徒良奴類奈里志可安

B 祖師能名字尔徒良奴類奈里志可安

0 1 2 7

A 礼盤如来与里四十餘代止毛尔新嗣能

B 礼盤如来与里四十餘代止毛尔新嗣能

0 1 2 8

A 名字部幾堂礼里堂止衛盤於乃_{／＼}新

B 名字部幾太礼里太止部盤於能_{／＼}新

0 1 2 9

A 祖尔左徒希堂類可己止之志可安礼_八

B 祖尔左徒希太類可己止志

A ④香積寺所藏「草案本嗣書断簡」

B 駒澤大學禅文化歴史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」

0 1 3 0

摩訶迦葉阿難隨等盤餘門能己止久
摩訶迦葉阿難隨等盤餘門能己止久

0 1 3 1

尔徒良奈礼里止幾尔道元宗月首座
尔徒良奈礼里止幾尔道元宗月首座

0 1 3 2

尔止不和尚以末五宗宗派遠徒良奴類尔
尔止不和尚以末五宗宗派遠徒良奴類尔

0 1 3 3

以左、加能同異安里所能己、呂以可无西天
以左、可同異安里所能己、呂以可武西天

0 1 3 4

与里嫡嫡相嗣世良盤安尔同異安良无也
与里嫡々相嗣世良盤奈武曾同異安良无也

A ⑤神應寺所藏「草案本嗣書断簡」

B 駒澤大學禪文化歷史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」

0 1 4 3

A 臨濟雲門洞山等能嗣法奈里志可安類

B 臨濟雲門洞山等能嗣法奈里志可安類

0 1 4 4

A 尔臨濟能遠孫 止 自稱寸類也可良末 尔

B 尔臨濟能遠孫止自稱寸類也可良末 尔

0 1 4 5

A 久和堂徒類不是安里以者久頂相壹副

B 久和太川類不是安里以者久善知識能會下尔参 志天 頂相壹副

0 1 4 6

A 法語壹軸 遠請 志轉 嗣法能標準尔所

B 法語壹軸 遠懇 請志天 嗣法能標準尔所

0 1 4 7

A 奈不志可安類尔一類 乃以奴安里尊宿 能

B 奈不志可安類尔一類 能狗子安里尊宿能

0 1 4 8

A 本止利尔志轉 法語頂相等 遠懇請 志天、

B 本止里耳法語頂相等 遠懇請 志天

0 1 4 9

A 可久之堂久和不類己止安末多安類耳

B 可久志太久和不類己止安末太安類尔

⑥永光寺所藏「草案本嗣書断簡」

B 駒澤大學禅文化歷史博物館所藏「修訂本『正法眼藏嗣書』」

0 1 5 0

A 官家尔陪錢志一院遠討得志轉住持

B 官家尔陪錢志一院遠討得志轉住持

0 1 5 1

A 能止幾盤法語能師尔 嗣法世寸當代

B 臧尔補春類止幾盤法語頂相能師尔 嗣法世壽當代

0 1 5 2

A 能名譽安里攝政等尔親附奈類毛乃尔

B 能名譽能止毛可良安類以者王臣尔親附奈類長老等尔

0 1 5 3

A 嗣法寸類止幾盤得法遠止者寸名譽遠

B 嗣法寸類止幾者得法遠止者寸名譽遠

0 1 5 4

A 武左本類可奈之武部之末法惡時可久

B 武左本類能三奈里加奈志武部之末法惡時加久

0 1 5 5

A 能已止久能邪風安不久已止遠可久能已

B 能己止久乃邪風安類己止遠加久能己

0 1 5 6

A 止久能也可良可徒轉以末堂祖佛乃道
尔

B 止久能也可良能奈可尔以末太可徒轉一人止之天毛佛祖能道遠

【参考資料】

【香積寺所藏『正法眼藏嗣書』副本漢字置換】

1 嗣書

2 (低二格) 觀音導利興聖寶林寺

3 佛佛可奈良寸佛佛嗣法_之祖祖可奈

4 良寸祖祖尔嗣法寸類古礼證契奈里

5 古礼單傳奈里己_(能敷)礼由惠尔無上菩提

6 奈里佛尔安良左礼盤佛遠印證寸類」(1才)

7 尔安堂者寸佛能印證遠衣左礼盤

8 佛と奈類己止奈之佛尔安良寸与里盤

9 堂礼可己礼遠寂尊奈里止之無上

10 奈里止印可寸類己止安良无佛尔印

11 證世良類、尔無師獨悟寸類奈里無

12 自獨證寸類奈里己能由衛尔佛佛證(1ウ)

13 嗣之祖祖證契寸止以不奈里己能道理能

14 天以堂良久波佛佛尔安良左類可安幾

15 良武部幾尔安良寸以者无也十地等覺能

- 16 所量奈良无也以可尔以者无也經師論師
- 17 等能遊女尔毛幾可左類止己呂奈里太止
- 18 飛幾久止毛幾久部可良寸佛佛相嗣寸類可」(2才)
- 19 由惠尔志類部 (之敷) 毛 佛道盤佛佛能究盡佛佛
- 20 尔志轉佛佛尔安良左類止幾奈之堂止衛
- 21 盤石盤石尔相嗣之玉盤玉尔相嗣寸類己止
- 22 安里 又菊毛相嗣 志松毛 印證寸類尔美奈
- 23 前菊後菊如如奈里前松後松究盡奈類
- 24 可己止 / \ (之敷) 志可阿類遠幾可左類人安幾良女(2ウ)
- 25 左類止毛可良安類盤以者由類佛佛正傳能
- 26 道得尔安不止以衛止毛以可尔以不道得奈里
- 27 止安也志武尔毛於与者寸佛佛相嗣 之 祖祖
- 28 證契寸止以不領覽安類己止奈之安者
- 29 礼无部之佛種族尔相似世里止以衛急止毛
- 30 佛子尔安良左類己止遠子佛尔安良左類己止遠(3才)
- 31 六祖先類止幾衆尔志女轉以者久七
- 32 佛与里慧能尔以堂類尔四 (十脱力) 祖 安里

- 33 慧能与里七佛尔以堂類尔四十祖安里
- 34 己能道理安幾良可尔参究寸部之以者由
- 35 類七佛者過去莊嚴劫尔出現世類毛安里
- 36 賢劫尔出現世類毛安里志可安類遠四十(3ウ)
- 37 祖尔徒良奴類盤佛道奈里佛嗣奈利
- 38 六祖与里向上尔七佛尔以堂礼盤四十祖能
- 39 佛嗣奈里七佛与里向上志轉六祖尔以堂
- 40 礼盤四十佛乃佛嗣奈類部之佛道祖道可久能
- 41 己止之證契尔安良寸佛祖尔安良左礼盤
- 42 佛智慧尔安良寸祖究盡尔安良左類奈利(4才)
- 43 以者由類志者良久四十祖止以不盤知可幾遠
- 44 安久類奈里深遠尔佛佛安比嗣法
- 45 世類己止能不退不轉奈里不斷不絕奈
- 46 類遠佛學寸類奈里所能佛儀釋迦
- 47 牟尼佛盤七佛以前尔成道寸止以衛止
- 48 毛飛左之久迦葉佛尔嗣法世類奈里降」(4ウ)
- 49 生与里三十歲、十二月尔成道寸止以衛止

- 50 毛寸那者知七佛以前尔成道世里又迦葉
- 51 佛盤釋迦牟尼佛尔嗣法寸類止参究
- 52 寸類奈里己能道理遠志良左類尔盤
- 53 佛道遠安幾良女寸佛道安幾良女左礼
- 54 盤佛嗣尔安良春佛嗣止以不已止盤佛子(5才)
- 55 止以不已止奈里釋迦牟尼佛安類止幾
- 56 阿難尔止者志武過去諸佛盤己礼堂礼
- 57 可弟子奈類所釋迦牟尼佛以者久過去
- 58 諸佛盤己礼我釋迦牟尼佛能弟子奈
- 59 里諸佛乃佛儀可久能己止之己乃諸佛
- 60 尔奉觀志轉佛嗣遠成燹世武寸那者」(5ウ)
- 61 知佛佛乃佛道尔轉安類部之己能佛道
- 62 可奈良寸嗣法寸類止幾左堂轉嗣書
- 63 安里毛之嗣法奈久嗣書奈幾盤寸那者知
- 64 天然外道奈里佛道毛之嗣法遠決定
- 65 寸類尔安良寸与里波以可天可今日尔以多
- 66 良无己礼尔与里轉佛佛奈類尔盤左太」(6才)

- 67 免轉佛嗣佛能嗣書安類奈里佛嗣
- 68 佛能嗣書遠宇類奈里所能嗣書能天以
- 69 堂良久日月星辰遠佛嗣志轉毛嗣
- 70 法寸部之皮肉骨髓遠得世之免天毛嗣
- 71 法寸部之正法眼藏遠附之天毛嗣法寸部
- 72 之安類以者袈裟遠相嗣志安類以者柱^(柱)(6ウ)
- 73 杖遠相嗣^志安類以者松枝遠相嗣^志安留以者
- 74 佛子遠相嗣^春安類以者優曇花遠相
- 75 嗣^志安類以者金襴衣遠相嗣寸鞞鞋能
- 76 相嗣安里竹篋能相嗣安里己礼良能
- 77 嗣法遠相嗣寸類止幾安類以者指血
- 78 志轉書嗣^志安類以者血舌志轉書嗣」(7才)
- 79 春安類以者油乳遠毛天可幾嗣法寸類
- 80 止毛尔己礼嗣書奈里嗣世類毛乃得
- 81 世類毛乃止毛尔古礼佛嗣奈里末己止尔
- 82 所礼佛祖止奈類止幾嗣法可奈良寸現
- 83 成寸現成寸類己止期世左礼止毛幾多
- 84 里毛止免左礼止毛嗣^{气法止毛}得世類佛祖」(7ウ)

- 85 末、尔於保志嗣法安類者可奈良寸
- 86 佛佛祖祖奈里「*頭注朱書四十九リ」
- 87 第二十八祖西来与里己能可堂東土尔盤「*四」
- 88 佛家尔嗣法安類己止遠幾久奈里嗣法
- 89 安類己止遠美類奈里所礼与里左幾波
- 90 可徒轉以末堂幾可左利之奈利西天能「(8才)
- 91 論師法師等於与者寸志良左類止己呂
- 92 奈里安者礼无部之十聖三賢能境界於
- 93 与者左類止己呂三藏義學能咒術師等
- 94 安里止堂尔毛宇堂可者左類毛能奈里可
- 95 奈之武部之道器奈類人身遠宇計轉以堂
- 96 徒良尔教網尔末徒者礼天透脱能法遠「(8ウ)
- 97 志良寸跳出乃期遠期世左良无可類可由惠尔
- 98 學道乃審細尔寸部幾参究乃志氣遠
- 99 毛者良寸部幾奈里「*頭注朱書「十三ク」
- 100 道元、在宋のとき、嗣書を禮拜すること「*頭注朱書

「五」

- 101 遠衣之尔多般乃嗣書安里所能奈可尔
- 102 惟一西堂止轉天童尔掛錫世之盤越上」(9才)
- 103 人奈里前往廣福寺能堂頭奈里先師
- 104 止同鄉人奈里先師徒祢以者久境風盤
- 105 一西堂尔問取寸部之安類止幾西堂以者
- 106 久古蹟能可觀盤人間能玆玩奈里以久
- 107 者久可見來世類道元以者久見來世類
- 108 已止奈之止幾尔西堂以者久吾那(9ウ)
- 109 裏尔壹軸能古蹟安里甚麼次第奈
- 110 里與老兄看止以飛轉携來遠美礼盤
- 111 嗣書奈里寸那者知法眼下能尔天安里
- 112 計類遠老宿能衣鉢能奈可与里衣多
- 113 里希里惟一長老能尔盤安良左利計里
- 114 可礼尔可幾堂里之樣盤」(10才)
- 115 初祖摩訶迦葉悟於釋迦牟尼佛釋
- 116 迦牟尼佛悟於迦葉佛可久能已止久可幾
- 117 堂里予已礼遠美之尔正嫡能可奈

- 118 良寸正嫡尔嗣法安里計類己止遠決定信受寸未曾
- 119 有能法奈里「*頭注朱書「廿ク」」
- 120 雲門下乃嗣書止以飛轉宗月長老乃天」 「頭注朱書*
「六」」（10ウ）
- 121 童能首座臧尔充世里之止幾道元尔
- 122 美世之盤以末嗣書遠宇類人能徒幾可三
- 123 能師於与飛西天東地能佛祖遠徒良
- 124 祢奈良部轉所能志堂尔嗣書宇類人能
- 125 名字安里諸佛与里直尔以未能新
- 126 祖師能名字尔徒良奴類奈里志可安」（11才）
- 127 礼盤如来与里四十餘代止毛尔新嗣能
- 128 名字部幾堂礼利堂止衛盤於乃／＼新
- 129 祖尔左徒希堂類可己止之志可安礼八 「頭注朱書*「十
ク」」
- 130 摩訶迦葉阿難陀等盤餘門能己止久 「頭注朱書*「七
ク」」
- 131 尔徒良奈礼里止幾尔道元宗月首座
- 132 尔止不和尚以末五家宗派遠徒良奴類尔（11ウ）

- 133 以左、加乃同異安里所能己、呂以可无西天
- 134 与里嫡々相嗣世之盤安尔同異安良无也「頭注朱書*」五
 夕」
- 135 宗月以者久堂止飛同異者類可奈里止以
- 136 不止毛堂、末左尔雲門山能佛人可久能
- 137 己止之止奈良宇部之釋迦老子、奈尔、与
- 138 里轉可尊重他奈類悟道尔与里轉」(12才)
- 139 尊重奈里雲門大師奈尔、与里可尊
- 140 重他奈類悟道尔与里轉尊重奈里「朱書頭注*」六夕」
- 141 道元己乃語遠幾久尔、以左、加領覽安「朱書頭注*」九」
- 142 里以末江浙尔大利能主止安類盤、於保久
- 143 臨濟雲門洞山等能嗣法奈里志可安類し「朱書頭注*」九ノ
 後」
- 144 尔臨濟能遠孫止自稱寸類也可良末、尔」(12才)
- 145 久和堂徒類不是安里以者久頂相壹副
- 146 法語壹軸遠請志轉、嗣法能標準尔所
- 147 奈不志可安類尔一類乃以奴安里尊宿能

- 148 本止利尔志轉法語頂相等遠懇請志天、
- 149 可久之堂久和不類已止安末多安類耳
- 150 官家尔陪錢志一院遠討得志轉住持」(13才)
- 151 能止幾盤法語能師尔嗣法世寸當代
- 152 能名譽安里攝政等尔親附奈類毛乃尔
- 153 嗣法寸類止幾盤得法遠止者寸名譽遠
- 154 武左本類可奈之武部之末法惡時可久
- 155 能已止久能邪風安不久已止遠可久能已
- 156 止久能也可良可徒轉以末堂祖佛乃道尔」[*「七夕」(13
ウ)
- 157 通達世類已止奈之於保与所法語頂相「*「十一」
- 158 等遠安堂不類已止者教宗乃講師於
- 159 与飛在家能男女等尔毛左徒希投院
- 160 世類行者等尔毛遊類寸奈里所能武年
- 161 諸家能録尔安幾良可奈里又所能人尔
- 162 安良左類可美堂里尔嗣法遠證據遠能」(14才)
- 163 所武尔与里轉壹軸能書遠毛止武類

- 164 己止安里有道能以堂武止己呂奈里止以衛
- 165 止毛奈末志為尔援筆寸類尊宿安里「*「九ク」」
- 166 古來能書式尔与良寸以左、加師吾能「*「十二」」
- 167 与之遠可久奈里近來能法盤堂、所能
- 168 師能會尔轉得力寸札盤寸那者知可能師遠」（14ウ）
- 169 師止嗣法寸類奈里可徒轉所能師能印遠
- 170 衣左札止毛堂、入室上堂尔咨参之天「*「五ク」」
- 171 長連牀尔安類止毛可良住院乃止幾盤所「*「十三」」
- 172 乃師承遠舉寸類尔以止末安良左札止毛
- 173 大事打開寸類止幾所能師遠師止世類
- 174 能三於保之又龍門佛眼禪師清遠和尚（15才）
- 175 能遠孫尔轉傳藏止以不毛乃安里幾加能
- 176 傳藏主末堂嗣書遠帶世里嘉定
- 177 能者之免尔也末不志希類尔鄉僧隆禪「*「七ク」」
- 178 上座加能傳藏遠看病志希類尔勤「*「十四」」
- 179 勞安里希類尔与里轉看病遠謝世武可太
- 180 女尔嗣書遠止里以堂之轉禮拜世之免」（15ウ）

- 181 希里美可堂幾毛能奈里與你禮拜以比
- 182 計里所礼与里能知八年能_レ知嘉定十六
- 183 年癸未安幾能己呂道元者志女天天童
- 184 山尔寓直寸類尔隆禅上座祢无己呂尔
- 185 傳藏主尔請志天嗣書遠道元尔美世
- 186 之盤所能嗣書能可幾也宇七佛与里能知「*「九夕」」(16才)
- 187 臨濟尔以堂類末轉四十「「五」補入」祖遠徒良年可幾「*
「十五」」
- 188 天臨濟与里能知師盤一圓相遠徒久利
- 189 天所能奈可尔女久良之天法諱止花字止遠
- 190 宇徒之可希里新嗣盤於波里尔年号
- 191 能下頭尔可希里臨濟能尊宿尔可能
- 192 己止久能不同安里止志類部之「*「六夕」」(16ウ)
- 193 先師天童堂頭不可久美堂里尔嗣法「*「十六」」
- 194 世類人遠以未免之幾「末己止耳_(?)先師乃會者_(已歟)多_(?)礼」叢林能中
興奈利。
- 195 美徒可良毛末堂良奈類袈裟遠毛知
- 196 為寸芙蓉山能楷禅師能衲法衣徒堂

- 197 者礼里止以衛止毛上堂陞座尔毛知
- 198 為寸於保与所住持職止志轉末堂良奈留」(17才)
- 199 法衣可徒轉一生能宇知尔可計寸己、呂安類
- 200 毛能志良左類止毛尔本女幾真箇善知識奈里止」(尊敷)重寸」先
- 201 師上堂寸類尔、徒年尔諸方遠以末之免轉以
- 202 者久近来祖道尔名遠可礼留也可良美堂
- 203 里尔法衣遠塔志長髮遠己能美師號署
- 204 世類己止遠出世能舟航止世里安者礼无部之」 * 「十二
ク」(17ウ)
- 205 堂礼可己礼遠寸久者无宇良武良久盤諸方長
- 206 老無道心尔志天學道世左類己止遠嗣
- 207 書嗣法能因緣遠幾希類毛末礼奈里己礼
- 208 祖道能陵遲奈里可久能己止久与能川年尔
- 209 以末之女志武類尔天下能長老宇良美寸志可
- 210 安礼盤寸那者知誠心辨道寸類己止安良八(18才)
- 211 嗣書安類己止遠幾久部之幾久己止遠衣之
- 212 志類己止遠衣盤學道奈類部之」 * 「八ク」

- 213 臨濟能嗣書盤末徒所能名字遠可幾「*「十八」」
- 214 天某甲子和礼尔参寸止毛、和可會尔幾太
- 215 礼里止毛入吾堂奧止毛嗣吾止毛可幾轉
- 216 徒以天能己止久前代遠徒良奴類奈里(18ウ)
- 217 可礼毛以左、加以飛幾太礼類法訓安里
- 218 以者由類宗趣盤嗣盤於者里者之免尔
- 219 古礼堂、真善知識遠止不良不的旨
- 220 奈里臨濟尔可希類盤可久能己止久可久
- 221 未能安太里美之尔与里天志類寸奈利
- 222 ○了派藏主者威武人也今吾子也德光」(19才)
- 223 参侍徑山杲和尚徑山嗣夾山勤勤嗣
- 224 楊岐演演嗣海會端端嗣楊岐會會
- 225 嗣慈明圓圓嗣汾陽「昭昭」補入「昭嗣首山念念
- 226 嗣風穴昭昭嗣南院顛嗣興化」(狀+大) 〓 (狀+大)
- 227 是臨濟高祖之長嫡也。「*「十五ク」」
- 228 己礼盤阿育王山佛照禅師德光可幾「*「十九」」(19ウ)
- 229 轉派無際尔左徒希轉安里希類遠

- 230 天童能住持尔轉安里之止幾小師僧
- 231 智庚飛曾可尔毛知幾堂里轉了然
- 232 寮尔之轉道元尔美世之止幾尔大宋
- 233 嘉定十七年甲申正月二十一日者志女天
- 234 己礼遠美類嘉感以久所者久所寸那者知」(20才)
- 235 佛祖能冥感燒香禮拜志轉披看尔
- 236 己能嗣書遠請出寸類己止者去年七月能
- 237 己呂師廣都寺飛曾可尔寂光堂尔之轉「*」十夕」
- 238 道元尔加堂礼里道元すなはち都寺に「*」二十」
- 239 止不如今堂礼人可己礼遠帶持世類都寺
- 240 以者久堂頭老漢那裏有相似能知尔請出」(20ウ)
- 241 祢无己呂尔世盤左太免轉美寸類己止安
- 242 良无道元己能己止者遠幾、轉喜踊本祢尔
- 243 止本里毛止武類己、呂日夜尔休世寸己能由
- 244 衛尔今年祢无己呂尔小師能僧智庚遠可
- 245 堂良飛一片能心遠奈計轉請得世里之
- 246 奈里所能可計類地盤白絹能表背世類尔」(21才)

- 247 可久表紙盤安可幾錦奈里軸盤玉奈里長
- 248 九寸者可里闊七尺餘奈里閑人可盤美世寸
- 249 道元寸那者知智庚遠謝寸又即時尔堂「*「廿一」」
- 250 上尔参志轉燒香禮謝無際和尚止幾尔
- 251 無際以者久遮一段事少曾見知今老兄
- 252 知得學道之實歸也止幾尔道元喜感」(21ウ)
- 253 無勝寶慶能己呂道元台山鴈山等尔
- 254 雲遊寸類徒以轉尔平田能万年寺尔以堂
- 255 類住持者福州能元轟和尚奈里宗鑒
- 256 長老退院能、知轟和尚補春叢席遠
- 257 一興春人事能徒以轉尔武可之与里能
- 258 佛祖能家風遠往来世之武類尔大瀉仰山」(22才)
- 259 能令嗣話遠君舉寸類尔長老以者久曾
- 260 看嗣書也否道元以者久以可轉(可敷)能己礼遠美无「*「十二
ク」」
- 261 長老寸那者知美徒可良堂知轉嗣書遠左「*「廿二」」
- 262 左計天以者久這箇盤堂止飛親人奈利止
- 263 以衛止毛堂止飛侍僧能止之遠部堂類止

- 264 以衛止毛己礼遠美世之免寸己礼春奈者知」 (22ウ)
- 265 佛祖能法訓奈里志可安礼止毛元熏比己呂
- 266 出城志轉見知府能堂免耳在城能止幾
- 267 一夢遠感寸類尔以者久大梅山法常禪師
- 268 止於保之幾高僧安里轉梅花一枝遠左
- 269 志安希轉以者久毛之春轉尔舩舷遠己
- 270 由類實人安良无尔盤花遠於之武己止奈」 (23才)
- 271 可礼止以飛轉梅花遠和礼尔安堂不止幾尔
- 272 元熏於保衣寸之轉夢中尔吟志天以者久
- 273 未跨舩舷好與三十志可安類尔不經五日與
- 274 老兄相見以者无也老兄寸轉尔舩舷跨来、
- 275 己能嗣書末堂梅花綾尔可希里大梅能
- 276 於之不類止己呂奈良武夢草止符合寸類」 (23ウ)
- 277 由惠尔止里以堂寸奈里老兄毛之和礼尔
- 278 嗣法世无己止遠毛止武也堂止比毛止武止毛
- 279 於之武部幾尔安良寸道元信感於久止己呂
- 280 奈之嗣書遠請寸部之止以衛止毛堂、燒香

- 281 禮拜志轉恭敬供養寸類能三奈里止幾
- 282 尔燒香侍者法寧止以不安里者志女轉」 「*廿二夕」 (24才)
- 283 嗣書遠美類止以飛幾己礼盤落地梅綾
- 284 能志呂幾尔加計里長九寸餘闊一尋餘
- 285 奈里軸子盤黃玉奈里表紙盤錦奈里道元
- 286 台山与里天童尔可衛類路 裡^(程敷)尔大梅山護
- 287 聖寺能旦過尔宿寸類尔大梅祖師幾多類
- 288 開花世類一枝能梅花遠左徒久 能^(類敷)靈夢遠」 (24ウ)
- 289 感春祖鑿毛止毛仰憑寸類毛能奈里所能
- 290 一枝花能縱橫壹尺餘奈里梅花安尔優
- 291 曇尔安良左 无^(良脱敷)也道元在宋能安比堂歸國
- 292 能ゝ知以末堂可徒轉人尔加堂良寸 「*十夕」
- 293 以末和可洞山宗門尔可希類臨濟等尔可 「* 「廿四」
- 294 計類尔己止奈里佛祖能衣裏尔可ゝ礼里」 (25才)
- 295 希類遠青原 「補入* 「高」」 祖志堂志久六祖能几^{キセム}前尔
- 296 志轉手指与里淨血遠以堂之轉可幾正傳
- 297 世^(ママ)里 希類奈里己指血尔六祖能指血遠

- 298 合志轉可幾希類止相傳世里初祖二祖能
- 299 止己呂尔毛合血能儀於己奈者礼希類止
- 300 相傳春己礼吾子参吾奈止盤可、寸七佛」(25ウ)
- 301 於与飛諸佛能可幾徒堂衛良礼希類嗣書
- 302 能儀奈里「*「十ク」
- 303 (一行記載なし)
- 304 嗣書「*「廿五」」
- 305 「低二格」仁治二年辛丑春三月二十七日書
- 306 先師天童和尚志免志轉以者久」(26才)
- 307 諸佛可奈良寸嗣法安里以者由類
- 308 釋迦牟尼佛者迦葉佛_耳嗣法春
- 309 迦葉佛盤拘那含牟尼佛_尔嗣法_春拘那
- 310 含牟尼佛者拘留孫佛尔嗣法寸類奈利
- 311 可久能己止久佛々相嗣志轉以末多於与不止
- 312 信学寸部之己礼學佛能道奈里止幾尔」(26ウ)
- 313 道元末_(字敷)良寸迦葉佛入涅槃能、知釋迦

- 314 牟尼佛者志女轉出世成道世里以者无也
- 315 末堂賢却能諸佛以可尔志轉莊嚴却能
- 316 諸佛尔嗣法世无古能道理以可无「*「十三ク」」
- 317 先師以者久奈无知可以不止己呂盤聽チムカウ教能解奈ケ「*「廿六」」
- 318 里十聖三賢等能道奈里佛祖嫡嫡能美」（27才）
- 319 知尔安良寿和可佛々相傳能道盤志可安良寸
- 320 釋迦文佛末左志久迦葉佛尔嗣法勢里
- 321 止奈良比幾多類奈里釋迦能嗣法志
- 322 轉能知尔迦葉佛盤入涅槃寸類止學寸類
- 323 奈里釋迦佛毛之迦葉佛尔嗣法世左良无盤
- 324 天然外道止於奈之可類部之堂礼可釋迦佛」（27ウ）
- 325 遠信寸類安良无可久能己止久佛々相嗣志天
- 326 以末尔於与飛幾堂礼類尔与里轉箇々
- 327 佛止毛尔正嗣奈里徒良奈類尔安良寸安徒
- 328 末礼類尔安良寸末左尔可久能己止久佛々
- 329 相嗣寸類遠學寸類奈里諸阿笈摩教能
- 330 以不止己呂能劫量壽量等尔可、者類部可」（28才）

- 331 良寸毛之飛止衛尔釋迦佛与里於己礼里止
- 332 以者、和徒「補入「可」」尔二千餘年奈里不類幾尔
- 333 安良寸相嗣毛和徒可尔四十餘代奈里安良
- 334 堂奈類止以飛奴部之己能佛嗣盤志可能
- 335 己止久學寸類尔安良寸釋迦佛盤迦葉佛
- 336 尔嗣法寸類止學^志迦葉佛盤釋迦佛尔(28ウ)
- 337 嗣法世里止學寸類奈里可久能己止久學
- 338 寸類止幾末左尔諸佛諸祖能嗣法尔天盤
- 339 安類奈里己能止幾道元者志女轉佛祖
- 340 能嗣法安類己止遠稟受寸類能三尔安良寸
- 341 從來能舊窠遠毛脱落寸類奈里于
- 342 時日本仁治二年歲次辛丑三月二十七日觀音導利」(29才)
- 343 「*一行アケ」
- 344 興聖寶林寺沙門道元記」
- 345 「*一行アケ」
- 346 「低二格」仁治二年辛丑十二月十二日子時書」 「*「廿九
ヲ」
- 347 「低十一格」學人是法學持

「*郭内 有界」

是ノリトチ 番付有 ケタイトモニ三百四十四クタリ

「*郭外」

右廿六二分ケ 但十二段ニ有(29ウ)

【参考資料】

【香積寺所蔵『正法眼蔵嗣書』副本翻刻】

1 嗣書

2 観音導利興聖寶林寺

3 佛佛かならず佛佛に嗣法し、祖祖かな

4 らず祖祖に嗣法する、これ證契なり、

5 これ單傳なり。このゆえに無上菩提

6 なり。佛にあらされは、佛を印證する」(1才)

7 にあたはず、佛の印證をえされは、

8 佛となることなし。佛にあらずよりは、

9 たれかこれを最尊なりとし、無上

10 なりと印可することあらん。佛に印

11 證せらるゝに、ム・ナクシ・ヒテシトク・ヒトリコ・サトル無 師 獨 悟 するなり、無

12 自獨證ヒトリシヨウスするなり。このゆへに、佛佛證(1ウ)

- 13 嗣し、祖祖證契すといふなり。この道理の
- 14 ていたらくは、佛佛にあらさるか、あき
- 15 らむへきにあらず。いはんや十地等覺の
- 16 所量ならんや。いかにいはんや經師論師
- 17 等のゆめにもきかさるところなり。たと
- 18 ひきくとも、きくへからず。佛佛相嗣するか」(2オ)
- 19 ゆへに、しるへ(シカ)も、佛道は佛佛の究盡、佛佛
- 20 にあらさる時節あらさるときなし。たとえ
- 21 は、石は石に相嗣し、玉は玉に相嗣すること
- 22 あり。又、菊も相嗣し、松も印證するに、みな
- 23 前菊マヘノキクノチノキク後菊如如なり、前松後松究盡なる
- 24 可己止マヘノキクノチノキク。きかさる人、あきらめ(2ウ)
- 25 さるともからあるは、いはゆる佛佛正傳の
- 26 道得にあふといふとも、いかにいふ道得なり、
- 27 とあやしむにおよはず、佛佛相嗣の祖祖
- 28 證契すといふリム・コ、ロムルラム領覽あることなし。あは
- 29 れん(む)へし、佛種族に相似なりといふとも、

- 30 佛子にあらさることを、子佛にあらさることを。(3才)
- 31 六祖、あるとき衆にしめしていはく、七
- 32 佛より慧能にいたるに、四祖(十脱カ)あり、
- 33 慧能より七佛にいたるに、四十祖あり。
- 34 この道理、あきらかに参究すへし。いはゆ
- 35 る七佛は、過去莊嚴劫に出現せるもあり、
- 36 賢劫に出現せるもあり。しかあるを、四十(3ウ)
- 37 祖につらぬるは、佛道なり、佛嗣なり。
- 38 六祖より向上に七佛にいたれば、四十祖の
- 39 佛嗣あり。七佛より向上して六祖にいた
- 40 れは、四十佛の佛嗣なるへし。佛道祖道、かくの
- 41 ことし。證契にあらず、佛祖にあらされは、
- 42 佛智慧にあらず、祖究盡にあらさるなり。(4才)
- 43 いはゆるしはらく四十祖といふは、ちかきを
- 44 ヒ拳すれトもいふ シムフカ 深くに佛佛あひ嗣法
- 45 せることの不退不轉なり。不斷不絶世幾な
- 46 るを、佛、學するなり。その佛儀は、釋迦

- 47 牟尼佛は、七佛以前に成道すといえと
- 48 も、ひさしく迦葉佛に嗣法せるなり。降」(4ウ)
- 49 生より三十歳、十二月に成道すといふと
- 50 も、すなはち七佛以前に成道せり。又、迦葉
- 51 佛は、釋迦牟尼佛に嗣法すると参究
- 52 するなり。この道理をしらさるには、
- 53 佛道をあきらめず。佛道あきらめされ
- 54 は、佛嗣にあらず。佛嗣といふことは、佛子(5オ)
- 55 といふことなり。釋迦牟尼佛、あるとき、
- 56 阿難にとはしむ、過去諸佛は、これたれ
- 57 か弟子なるそ。釋迦牟尼佛いはく、過去
- 58 諸佛は、これ我釋迦牟尼佛の弟子な
- 59 り。諸佛の佛儀、かくのことし。この諸佛
- 60 に フ・ツカフマツルコム 奉 覲して、佛嗣を成熒せむ。すなは」(5ウ)
- 61 ち佛佛の佛道にてあるへし。この佛道、
- 62 かならず嗣法するとき、さた (め脱カ) て 嗣書
- 63 あり。もし嗣法なく、嗣書なきは、すなはち

- 64 天然外道なり。佛道もし嗣法を決定
- 65 するにあらすよりは、いかてか今日にいた
- 66 らん。これによりて、佛佛なるには、さた」(6オ)
- 67 めて佛嗣佛の嗣書あるなり、佛嗣
- 68 佛の嗣書をうるなり。その嗣書のてい
- 69 たらく、日月星辰を佛嗣して嗣
- 70 法すへし。皮肉骨髓を得せしめても嗣
- 71 法すへし。正法眼蔵を附しても嗣法すへ
- 72 し。あるいは袈裟を相嗣し、あるいは柱^(柱)(6ウ)
- 73 杖を相嗣し、あるいは松枝^(ハウシ)を相嗣す。あるいは
- 74 佛^(佛カ)子を相嗣す。あるいは優曇花を相
- 75 嗣し、あるいは金襴衣^(キンランエ)を相嗣す。鞞^(キウアイ)鞋^(クナリ)の
- 76 相嗣あり、竹篋^(シユウヒ)の相嗣あり。これらの
- 77 嗣法を相嗣するとき、あるいは指血
- 78 して書嗣し、あるいは血舌して書嗣」(7オ)
- 79 す。あるいは油^(ユ)乳^(アラ)をもてかき、嗣法する、
- 80 ともにこれ嗣書なり。嗣せるもの、得

- 81 せるもの、ともにこれ佛嗣なり。まことに、
- 82 それ佛祖となるとき、嗣法かならず現
- 83 成す。現成すること、期せされともきた
- 84 り、もとめされとも嗣^{法とも}得せる佛祖」(7ウ)
- 85 まゝにおほし。嗣法あるは、かならず
- 86 佛佛祖祖なり。「*四十九リ」
- 87 第二十八祖、西来よりこのかた、東土には
- 88 佛家に嗣法あることをきくなり。嗣法「*四」
- 89 あることをみるなり。それよりさきは、
- 90 かつていまたきかさりしなり。西天の」(8オ)
- 91 論師・法師等、およはす、しらするところ
- 92 なり。あはれんへし、十聖・三賢の境界お
- 93 よはさるところ、三蔵義^{キカク}學の咒術師等、
- 94 ありとたにも、うたかはさるものなり。か
- 95 なしむへし、道器なる人身をうけて、いた
- 96 つらに教^{フウ・アミ}網にまつはれて、透脱^{テウトツ}の法を」(8ウ)
- 97 しらす、跳^{テフシユツ・イツル}出の期を期せさらん。かるかゆゑに、

- 98 學道の審細シムサイにすへき、参究の志氣を
- 99 もはらすへきなり。「*頭注朱書「十三ク」
- 100 道元、在宋のとき、嗣書を禮拜すること「*頭注朱書
「五」」
- 101 をえしに、多般の嗣書あり。そのなかに、
- 102 惟一西堂とて、天童に掛クラ・カケセキ・セキヲ錫セシハせしは、越上エチトコロノ名の「9
オ
- 103 人事なり、前住廣福寺の堂頭なり。先師
- 104 と同郷人トウキヤウシムなり。先師、つね（「に」脱カ）いはく、境風は、
- 105 一西堂に問取すへし。あるとき西堂いは
- 106 く、古蹟コセキへフルキ・テカキノアトの可觀は、人間の瓊玩テムカム
- 107 へモテアソヒなり、いく
- 108 はくか見来せる。道元いはく、見来せる
- 109 ことなし。ときに、西堂いはく、吾那コナへソコモト、云申也
- （9ウ）
- 110 裏リに壹軸イチチクの古蹟コセキあり甚麼次第シフスチイへイカナル又テタサウな
- 111 り。與老兄看キラウクキムカムへミセムト云ナリといひて、携来トリテキタルをみれば、
嗣書なり。すなはち法眼下のにてあり

112 けるを、老宿の衣鉢のなかよりえたりけり。惟一長老のにはあらさりけり。
113 かれにかきたりし様は、」(10オ)

115 初祖摩訶迦葉、悟^ニ於釋迦牟尼佛。釋

116 迦牟尼佛、悟^ニ於迦葉佛^一。かくのことくかき

117 たり。予、これをみしに、正嫡のかな

118 らす正嫡に嗣法ありけることを決定^{ケアチチヤウ}信受す。未曾^{ソフ}

119 有^ウの法なり。「頭注朱書*「甘ク」」

120 雲門^{ウムモン}下の嗣書^カとて、宗月^{シフクワツ}長老の天「頭注朱書*「六」」

(10ウ)

121 童の首座^{シキ}職^{アタレリ}に充^{シキ}せりしとき、道元に

122 みせしは、いま嗣書をうる人のつきかミ

123 の師、およひ西天東地の佛祖をつら

124 ねならへて、そのしたに、嗣書うる人の

125 名字あり。諸佛より直にいまの新

126 祖師の名字につらぬるなり。しかあ(11オ)

127 れは、如来より四十餘代、ともに^{シム・アタラシクシ・ツク}新^{ツク}嗣^{ツク}の

- 128 名字へきたれり。たとゑは、おの／＼新
- 129 祖にさつつけたるかことし。しかあれハ、「頭注朱書*」十
ク」
- 130 摩訶迦葉・阿難陀等は、餘門のことく 「頭注朱書*」七
ク」
- 131 につらなれり。ときに、道元、宗月首座
- 132 にとふ、和尚、いま五家宗派ソウハクイをつらぬるに、(11ウ)
- 133 いさゝか同異あり。そのこゝろいかん。西天
- 134 より嫡々相嗣せしは、あに同異あらんや。
- 135 宗月いはく、たとひ同異はるかなりとい
- 136 ふとも、たゝまさに雲門山の佛ハ、かくの
- 137 ことしとならうへし。釋迦老子、なにゝよ
- 138 りてか尊重他なる、悟道によりて」(12オ)
- 139 尊重なり。雲門大師、なにゝよりか尊
- 140 重他なる、悟道によりて尊重なり。「*六ク」
- 141 道元、この語をきくに、いさゝか領覽リムラムあ「*九」
- 142 り。いま江浙カウセキに大刹セチの主とあるは、おほく
- 143 臨濟・雲門・洞山等の嗣法なり。しかある「*」九ノ後」

- 144 に、臨濟の遠孫エムソムと自稱するやから、まゝに」(12オ)
- 145 くわたつる不是あり。いはく、頂相チムシヤウイチフク壹副・
- 146 法語壹軸チクを請シルシして、嗣法の標準ヘウにそ
- 147 なふ。しかあるに、一類のいぬあり、尊宿の
- 148 ほとりにして、法語・頂相等をコム・チムコロニシヤウ・コウ懇請して、
- 149 かくしたくわふることあまたあるに、「*「九ク」
- 150 官家クワラカに陪錢フイセムへセニヲタテマツルし、一院タクを討テへタツ子得
- 151 へユキし、住持」(13オ)「*「十」
- 152 のときは、法語の師に嗣法せず、當代
- 153 の名メイ・ナノヨ・ホマレ譽セチシヤウあり、攝政等シムフに親附なるものに
- 154 嗣法するときは、得法をとはず、名譽を
- 155 むさほる。かなしむへし、末法悪時、かく
- 156 のことくの邪風あふくことを。かくのこ
- 157 とくのやから、かつていまた祖佛の道に」「*「七ク」」(13
- 158 ウ)
- 157 通達せることなし。おほよそ法語・頂相「*「十一」
- 158 等をあたふることは、教宗の講師、お

- 159 よひ在家の男女等にもさつけ、投院タウエム
- 160 せる行者等にもゆるすなりユル。そのむね、
- 161 諸家の録ロクにあきらかなり。又、その人に
- 162 あらさるか、みたりに嗣法のを證據をの」（14才）
- 163 そむによりて、壹軸の書をもとむんる
- 164 ことあり。有道のいたん（む）ところなりといふ
- 165 とも、なまし（む）るに援筆クワムヒチへフムテヲトルゝする尊宿あり。
- 166 「*「九ク」
- 古来の書式によらず、いさゝか師吾シゴへワレヲシトセリゝの
- 167 「*「十二」
- よしをかくなり。近来の法は、たゞその
- 168 師の會にて得力すれば、すなはちかの師を」（14ウ）
- 169 師と嗣法するなり。かつてその師の印を
- 170 えされとも、たゞ入室・上堂シサムに咨参して、「*「五ク」
- 171 長連牀チャウシムシヤウにあるともから、住院のときは、そ「*「十三」
- 172 の師承を擧するに、いとまあらされとも、
- 173 大事打開するとき、その師を師とせる
- 174 のみおほし。又、龍門佛眼リヤウモンフツケン禅師清遠和尚シムエム（15才）

- 175 の遠孫にて、傳藏テムソウといふものありき。かの
- 176 傳藏テムソウ主、また嗣書を帶せり。嘉定
- 177 のはしめに、やまふしけるに、郷僧隆禪キヤウソウリウセム「*「七ク」」
- 178 上座、かの傳藏を看病しけるに、勤キム「*十四」
- 179 勞ありけるによりて〔補入〕、看病を謝せむかた
- 180 めに、嗣書をとりいたして、禮拜せしめ(15ウ)
- 181 けり。みかたきものなり。與キニレイハイ你禮拜(と脱カ)いひ
- 182 けり。それよりのち、八年のち、嘉定十六
- 183 年ミツノトノヒツシ癸未あきのころ、道元はしめて天童
- 184 山クチヨクに寓直するに、隆禪リウセム上座、ねんころに
- 185 傳藏主に請して、嗣書を道元にみせ
- 186 しは、その嗣書のかきやう、七佛よりのち、「*「九ク」」
- (16オ)
- 187 臨濟にいたるまで、四十「五」補入」祖をつらねかき「*
- 「十五」」
- 188 て、臨濟よりのち(の脱カ)師は、一圓相をつくり
- 189 て、そのなかにめくらして、法諱ホウクキと花字クワスとを

190 うつしかけり。新嗣は、おほりに、年号
191 の下アチウ・シモノ頭ニにかけり。臨濟の尊宿に、かくの
192 ことくの不同ありとしるへし。「*「六ク」」(16ウ)

193 先師天童堂頭、ふかく人のみたりに嗣法「*「十六」」
194 せる人をいましめき。まことに、先師の會は、これ叢林の中
興なり。

195 みつからもまたらなる袈裟をもち
196 むす、芙蓉山フヨウの楷ヨウ禪師の衲法衣つた
197 はれりといふとも、上堂シムソウ陞座にもち
198 むす。おほよそ住持職シキとして、またらなる」(17オ)

199 法衣、かつて一生のうちにかけて。こゝろあ(脱アルカ)る、
200 もの物しらさ(脱アルカ)る、ともにほめき。真箇シムコへマコトへ善知識
なりと尊重す。先

201 師上堂するに、つねに諸方をいましめてい
202 はく、近来祖道に名をかれるやから、みた
203 りに法衣をタウ・カクルナリ塔テウし、長髪テウハチをこのみ、師號署
204 せることを、出世シウカウ・フネの舟航フネとせり。あはれん(む)へし、「*
「十二ク」」(17ウ)

- 205 たれか、これをすくはん。うらむらくは、諸方長「*「十
七」」
- 206 老、無道心にして學道せさることを。嗣
- 207 書・嗣法の因縁をきけるも、まれなり。これ
- 208 祖道の陵遲^{レウチ}なり。かくのことく、よのつねに
- 209 いましむるに、天下の長老、うらみす。しか
- 210 あれば、すなはち誠心辨道することあらハ、(18オ)
- 211 嗣書あることをきくへし。きくことをえ、
- 212 しることをえは、學道なるへし。「*「八ク」」
- 213 臨濟の嗣書は、まつその名字をかき「*「十八」」
- 214 て、某甲子、われに参すとも、わか會にきた
- 215 れりとも、入吾堂奥とも、嗣吾ともかきて、
- 216 ついてのことく、前代をつらぬるなり。(18ウ)
- 217 かれも、いさゝかいひきたれる法訓^{ホウクン}あり。
- 218 いはゆる宗趣^{ソウシン}は、嗣はおはりはしめに、
- 219 これたゝ真善知識をとふらふ的旨^{テキシ}
- 220 なり。臨濟にかけるは、かくのことくかく。

221 まのあたりみしによりてしるすなり。

222 ○了派藏主者威武レウハイサウシユウハキフノ〈所之名〉ヒトナリ人也。今吾子也。イマワカコナリ德光トクカウ（19才）

223 参侍徑山杲和尚サムシスキムサムカウ。徑山嗣シ夾山ニ勤キム。勤ハ嗣ス二

224 楊岐演ヤウキエン。演ハ嗣シ海會ノ端タム。端ハ嗣ス楊岐會ニ。會ハ二

225 嗣ス慈明ノ圓ニ。圓ニ嗣ス汾陽フンヤウ昭ニ。昭昭（衍カ）嗣ス首山ノ念ニ。念ニ

226 嗣シ風穴ノ昭昭（マ）。嗣ス南院ノ顛ク。嗣ス興化キムクワノシヤウ肆ニ（狀十升）ニ

（狀十升）

227 是臨濟高祖之長嫡也。コレ「*「十五ク」」

228 これは、阿育王山ユクワウサム佛照シヤウ禪師德光かき「*「十九」」（19

ウ）

229 て、派無際ハイフサイにさつけてありけるを、

230 天童の住持にてありしとき、小師セウシ僧ソウ

231 智庚チカム、ひそかにもちきたりて、了然

232 寮リヤウにして、道元ダウゲンにみせし。ときに、大宋

233 嘉定十七年甲申正月二十一日、はしめて

234 これをみる、嘉感キカムいくそはくそ。すなはち」（20才）

235 佛祖ミヤウカムの冥感メイカンなり、焼香禮拜して披看ヒラキミルに、

- 236 この嗣書を請出シンシユツすることは、去年七月の
 237 ころ、師廣クワウツウス都寺、ひそかに寂光堂にして、「*「十ク」」
 238 道元にかたれり。道元、すなはち都寺に「*「二十」」
 239 とふ、如今たれ人か、これを帶持せる。都寺
 240 いはく、堂頭老漢ラウカンナリイウシヤウス那裏有相似へモトニアルランソ。のちに
 241 ねんころにせは、さためてみすることあ
 242 らん。道元、このことはをきよて、喜キ・ヨロコブユ踊ほねに
 243 とほり、もとむることろ、日夜に休せず。このゆ
 244 へに、今年ねんころに小師の僧智庚をか
 245 たらひ、一片の心をなけて、請シム・コヒテ・スカリ得セリせりし
 246 なり。そのかける地は、白絹ヘウハイの表背せるに」(21オ)
 247 かく。表紙は、あかき錦ニシキなり。軸は、玉ナカサなり。長
 248 九寸はかり、闊ヒロサ七尺餘なり。閑カム・イタツラヒト(に敷)人かヒトはみせず。
 249 道元、すなはち智庚を謝す。又、即時に堂
 250 上に参して、焼香レインヤニ禮謝ムサイ無際和尚ヒト。ときに、
 251 無際コノいはく、遮一段タムノ事コト少シ曾見知カツテミシルヒト、今老兄イマラウクキム
 252 知得シルコトハ、學道之實歸也シチクキナリ。ときに、道元喜感キカム」(21ウ)

- 253 無勝^{ナシタフル}。寶慶のころ、道元、台山・鴈山^{カムサムトウ}等に
- 254 雲遊^{ウンユ}するついでに、平田^{ヒムテム}の万年寺にいた
- 255 る。住持は、福州^{フクシウ}の元^{クエムス}肅和尚^スなり。宗鑒^{スカム}
- 256 長老、退院^{ツイエム}のち、肅^ス和尚^フ補す、叢席^{ソウセキ}を
- 257 一興^{コウ}す。人事^{シムコト}のついでに、むかしよりの
- 258 佛祖の家風を往来せしむるに、大瀉^{タイキ}仰山^{カウサム}」(22才)
- 259 の令嗣^{リムスワ}話を君舉^{クニノリ}するに、長老いはく、曾^{カツテ}
- 260 看^{ミルヤシシヨ}嗣書^ラ也否。道元いはく、いかて^(かカ)の^(カ)これをみん。「*
「十二ク」
- 261 長老、すなはちみつからたちて、嗣書をさ「*「廿二」」
- 262 さけていはく、這箇^{コノ}は、たとひ親人なりと
- 263 いふとも、たとひ侍僧のとしをへたると
- 264 いふとも、これをみせしめず。これすなはち」(22ウ)
- 265 佛祖の法訓なり。しかあれとも、元肅、ひころ
- 266 出城^{シム}して、見知^{ケムシフ}府のために在城のとき、
- 267 一夢を感じるに、いはく、大梅山^{タイハイサム}法常^{ホウシヤウ}禅師
- 268 とおほしき高僧ありて、梅^{ハイム}花^{メノクワ}一枝^{ハナ}をさ

269 しあけて、いはく、もしすてにセム・フ子ノクエム・フナハタ 船 舷 をこ
270 ゆる實人あらんには、花をおしむことな」(23オ)

271 かれといひて、梅花をわれにあたふ。ときに、
272 元ス薫、おほえすして、夢中に吟キムして、いはく、
273 未ミ跨コ船セム舷クエム、好コウ與テ三十。しかあるに、不ス經ヘ五日ヲ、與ト
274 老兄ト相見ユ。いはんや、老兄すてに船舷コハキタル跨来、
275 この嗣書、また梅花ラム・アヤ綾ニかけり。大梅の
276 おしふるところならむ。ホウサウ夢草ユメナリと符合フカウアフナリする」(23ウ)

277 ゆゑに、とりいたすなり。老兄、もしわれに
278 嗣法せんことをもとむや。たとひもとむとも、
279 おしむへきにあらず。道元、信感カムおくところ
280 なし。嗣書を請すへしといゑとも、たゞ焼香
281 禮拜して、恭敬供養するのミなり。とき
282 に、焼香侍者法寧といふあり、はしめて「*廿二ク」(24
オ)

283 嗣書をみるといひき。これは、ラクチ落地梅綾
284 のしろきにかけり。長九寸餘、ヒロサヒトヒロアマリ闊一尋餘

- 285 なり。軸チク子は黄玉キナルタマなり、表紙ヘウシは錦ニシキなり。道元、
- 286 台山より天童にかへる路ロ程ミチシムに、大梅山ノ護コ
- 287 聖寺シヤウシの旦過タムコに宿するに、大梅祖師きたる。
- 288 開花せる一枝の梅花をさつく（るカ）の靈夢リムムヨキユメを（24ウ）
- 289 感カムす。祖鑿ソカムもとも仰タノミアリ憑カムヒカするものなり。その
- 290 一枝花のシユウ・タテワウ・サマ縦シユウ横アマリは、壹尺餘なり。梅花、あに優ウ
- 291 曇トムにあらさ（ら脱カ）んや。道元、在宋のあひた、歸國
- 292 のうち、いまたかつて人にかたらず。「*十ク」
- 293 いまわか洞山宗門にかける、臨濟等にか「*「廿四」」
- 294 けるにことなり。佛祖の衣裏にかゝれり」（25オ）
- 295 けるを、青原高祖、したしく曹谿キセムの几前テムマヘニテに
- 296 して、手指より淨血をいたしてかき、正傳
- 297 せり（ママ）けるなり。この指シ・ユヒノクエチ・チ血チに、六祖の指血を
- 298 合して、かきけると相傳せり。初祖・二祖の
- 299 ところにも、合血カウクエチチヲアワスルの儀キコウヲ也おこなはれけると
- 300 相傳す。これ吾子、参吾などはかゝす、七佛」（25ウ）
- 301 およひ諸佛のかきつたゑられける嗣書

- 302 の儀なり。「*「十ク」」
- 303 (一行記載なし)
- 304 嗣書「*「廿五」」
- 305 「低二格」仁治二年辛丑春三月二十七日書
- 306 先師天童和尚、しめしていはく、「(26オ)
- 307 諸佛かならず嗣法あり。いはゆる
- 308 釋迦牟尼佛者、迦葉佛に嗣法す、
- 309 迦葉佛者、拘那含牟尼佛に嗣法す、拘那
- 310 含牟尼佛者、拘留孫佛に嗣法するなり。
- 311 かくのこごとく、佛々相嗣して、いまた(にカ)およふと
- 312 信(受カ)学すへし。これ學佛の道なり。ときに、「(26ウ)
- 313 道元まらず、迦葉佛、入涅槃のち、釋迦
- 314 牟尼佛、はしめて出世成道せり。いはんや
- 315 また賢劫の諸佛、いかにしてシヤウコウ莊嚴劫の「*「十三ク」」
- 316 諸佛に嗣法せむ。この道理いかん。
- 317 先師いはく、なんちかいふところは、チムカウ聽教のケ解な「*「廿
- 318 六」」
- り、十聖三賢等の道なり、佛祖嫡嫡のみ」(27オ)

- 319 ちにあらず。わか佛々相傳の道は、しかあらず。
- 320 釋迦文佛、まさしく迦葉佛に嗣法せり、
- 321 とならひきたるなり。釋迦の嗣法し
- 322 てのちに、迦葉佛は入涅槃する
- 323 なり。釋迦佛、もし迦葉佛に嗣法せさらんは、
- 324 天然外道とおなしかるへし。たれか釋迦佛」(27ウ)
- 325 を信するあらん。かくのことく、佛々相嗣して、
- 326 いまにおよひきたれるによりて、箇々
- 327 佛、ともに正嗣なり。つらなるにあらず、あつ
- 328 まれるにあらず、まさにかくのことく、佛々
- 329 相嗣するを學するなり。諸阿笈摩教シヨアキフマケウの
- 330 いふところの劫量コウリヤウ・壽量等シユウリヤウトウにかゝはるへか」(28オ)
- 331 らず。もしひと忽に釋迦佛よりおこれりと
- 332 いはゞ、わかにかに二千餘年ヨ子ンなり、ふるきに
- 333 あらず。相嗣もわかにかに四十餘代なり。あら
- 334 たなるといひぬへし。この佛嗣は、しかの
- 335 ことく學するにあらず。釋迦佛は、迦葉佛

- 336 に嗣法すると學し、迦葉佛は、釋迦佛に(28ウ)
- 337 嗣法せりと學するなり。かくのことく學
- 338 するとき、まさに諸佛諸祖の嗣法にては
- 339 あるなり。このとき、道元、はしめて佛祖
- 340 の嗣法あることを稟受するのみにあらず、
- 341 従来の舊窠をも脱落するなり。于
- 342 時日本仁治二年歲次辛丑三月二十七日、觀音導利」(29才)
- 343 「*一行アケ」
- 344 興聖寶林寺沙門道元記」
- 345 「*一行アケ」
- 346 「低二格」仁治二年辛丑十二月十二日子時書」
- 347 「低十一格」學人是法学持
- 「*郭内 有界」
- 是ノリトチ 番付有 ケタイトモニ三百四十四クタリ
- 「*郭外」
- 右廿六二分ケ 但十二段ニ有(29ウ)

「低五格」永平開山

日本永平開山道元禪師、姓源氏、京兆人、簪纓之胤也。初生時相「士見云、此兒奇童也。七処平滿、骨相奇秀、眼有重瞳、非凡流。又空中」有声云、此兒五百年来間、出聖人也。七歳、誦左傳・毛詩、名称神童、欲為「関家猶子。八歳、逢母葬、遁入良頭法眼之室。又登横川首楞山」院、礼公円僧正披剃。十八歳中、二閲大藏、有疑網、詣建仁明庵、々為「法器。從明全（建仁二代）、航海入宋。掛錫天童時、欲列新戒位。師以呈書不可、（30才）又呈五山尚用旧規、又修表聞于朝。有旨須依臘次。由是、名振一」時、年二十四歳也。初見派無際・一環溪・宗月老・傳知藏・玄鼎翁・翠」岩卓、諸耆宿謂、和漢兩朝、無如（此歟）我善知識欲已帰朝。有老（璣カ）進云、「有独淨和尚、看他始得。偶天童虚席、郡主淨和尚補之。師即」参、入室請益、脇不ウルラサ沾席。已二歳、五更坐禅、淨巡堂云、参禅須心身脱落。祇管打睡俛生。師聞、豁然大悟。上方丈、燒香礼拜。淨云、「燒香事作麼生。師云、身心脱落来。淨云、身心脱落、脱落身心。（30ウ）師云、這個是暫時伎倆、莫和尚乱（印歟）即某甲。淨云、吾不乱印你。師云、「如何是不乱印底。淨云、脱落身心。時廣平侍者在旁云、非細也。国人」得恁麼大事。淨遂以洞山宗旨囑云、無鼻孔長老、通着○○（蝦遠——）、我為異彼」等、着黑衣。汝皈本国、弘通祖道、須着（班歟）班衣。大宋宝慶三年丁未、日

本」安貞元年皈朝。寓止建仁、居深草宝林寺、已有懷奘、深明皈上司。」由是、洞上玄風播天下。後關越前永平寺、叢規一則、平副帥時頼、「招以名藍不就。回越之旧院。建長五年癸丑八月二十八日、夜半書偈云、五十」(31才)四年、照第一天、打_(个力)于蹠跳、触破大千、咦。渾身無不_(勉覺カ)見、活陷」黄泉。擲筆長往。壽五十四、臘三十七、塔本山西北遇。入室弟子」有三人、懷奘、僧海、詮惠。」

「二行空き」

是ハ、安叟ノ書跡ニテ、紙壹枚ニ書在之、書札之箱入有故写者也。」(31ウ)

此書切渡シ申覚

一、越前永平寺頓叟大和尚様〈正保四年／亥五月十九日〉
渡し、」

二 (記載なし)

三 丹波随岸寺萬安大和尚様、亥五月廿六日、

四 六兵衛、

五、京五条、 又兵衛殿、

六、加賀大乘寺月舟和尚へ、寛文十二子五月」十夕タリ、

七、京三条、児玉昌慶_{ニ譲リ}、寛文九丙七月、」五夕タリ、

(32才)

八、 賀州、一中居士、

九、 八幡神応寺、

十、 賀州永光寺末寺、祐源居士建立寺、

十一、 (記載なし)

十二 摂州住吉、元咄様、

十三、 丹州随岸寺〈智仙様・懶禅和尚〉〈正保四年／亥六月

廿八日渡ス〉、

十四、 丹後宮津智源寺万水和尚、〈九夕タリ、万安和尚添書

付ル、／寛文十三年十月二日_ニ寄進仕候〉、

十五、 (記載なし)(32ウ)

十六、 京五条、大浜三右衛門殿

十七、 京五条、三之丞殿、江戸宗仙寺へ元通寄進令進候、

十八、 京五条、大浜元海老、〈享保六年丑十月、／菅半叟老

へ親父中陰_ニ進候、

十九、 武州大相寺雲竜和尚様、〈正保四年／亥五月廿六日〉、

廿、 江州大廣寺奠順和尚様、〈年号日付／如前〉、

廿一、 京二条、〈_ハ粕谷庄左兵門殿、／宗清〉、同、

廿二、 京五条、宗仙寺其心和尚様、〈年号如前、／亥五月十

九日〉、

廿三、山州皆見、〈孫三右衛門殿、／甫清也〉、亥六月十五日、
日、^レ「(33才)

廿四、京四条、弥三右衛門殿、

廿五、京五条、〈恕水事、次郎兵衛〉、

廿六、同、大浜次郎兵衛、〈慶安二己丑之年／九月廿七日^ニ、

〈宇治興聖寺へ／上ケ〉^レ」

合廿六所^ニ有、^クタリ^リ数三百四拾四ナリ、

清源院安叟自穩上人へ寛永廿^{ミツノト}癸未九月廿六日、(33ウ)

(低一格)書永平高祖嗣書卷後、^レ

欽惟、教外单傳古曲、嘗無異^レ韻、面授嗣法粹金、豈有變^レ色、

與乾坤不老、竝日月永明。^レ」(34才)苟其理論迷悟、於凡聖偏^レ執、

斷統於古今者、不免損^レ佛祖性命、況復有趨利競^レ勢。因寺憑境、

師資換易輩、是^レ」(34ウ)謂闡邪途、種荆棘惑、行道^レ之士耳。吾

□永平高祖、膺半^レ千氣運、具亞聖宗眼、擡巨^レ靈擘華之手、述

面授嗣^レ」(35才)書之旨、剷除蔓艸、不遺餘^レ力、非彼迷士之所、

是指南乎大道、其音迹擴充佛祖憲^レ章範圍、巖峻鐵壁銀牆、渾^レ

(35ウ)無滲漏、正法眼藏名、豈不^レ偉乎哉。藝府信士名井宗範^レ

家、久蓄□高祖親書嗣書卷^レ老紙。一日呈山僧云、此書出于^レ」(36

才)京師兒玉昌慶。々得之友人、秘^レ蓄已久矣。一日出^レ眊家弟淨

有。」々後移床于此府、寶襲閱歲。」淨有者、乃吾家之元祖也。云云。(36ウ)山僧聞此事、因拜閱親書。」若獲拱璧、感懌交集、不忍」獨特。乃迎請鳳山、數俾方来」雲衲、獲拜閱焉、猗歟、」(37才)高祖戢化、五百年于茲矣。片」言隻字、手澤淋漓、存于世」不朽。人々談之、則神意開豁、」不為無所獲也。宗不神物呵」(37ウ)護、其能如斯耶。倦々歸向、」不能護焉。信士因請記敬」書應焉。」

寶曆癸酉冬十二月吉旦」(38才)

前國泰十一世老頑契喚堂」敬識于嶺雲丈室

□(陽刻朱印「笑／堂」) □(陰刻朱印「行／契」)(38ウ)